

2024年6月30日

横浜市長 山中 竹春様

一般社団法人日本パラ水泳連盟 会長 河合 純一

一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 会長 佐野 和夫

一般社団法人日本デフ水泳協会 会長 竹中 芳晴

一般社団法人横浜水泳協会障害者委員会 代表 小清水 貢

### 横浜国際プールのメインプール存続のお願い（嘆願書）

横浜市におかれましては第3次横浜市スポーツ推進計画に「障害の有無に関わらず、スポーツに親しめる環境づくり」を掲げ障がい者のスポーツ、とりわけ水泳・水中運動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、横浜国際プールメインプールが再整備という構想の中で廃止の方向を公表されたことに衝撃を受けております。

横浜国際プールは世界パラ水泳連盟（WPS）公認の ジャパンパラ水泳競技大会、日本知的障害者選手権水泳競技大会の開催地であり、国内の選手、関係者はもとより、世界のパラ関係者にも知られているいわば「聖地」でございます。

単なる競技会場ではなくパラリンピックへの窓口であることはもちろん、私たちにとって、障がい者の水泳・水中運動を通じた社会参加の拡大を大きな使命として活動を続けておりますが、それを社会への訴求する場でもございます。

横浜市は令和4年から全国に先駆け「インクルーシブ水泳競技大会」を開催していただき、私たちにとって目標の具体化として喜んでおりましたが、それがメインプールでなくなることは目標の喪失感に似た脱力感すら感じます。

5月開催の2024 ジャパンパラリンピック開催時にも、多くの選手から横浜国際プールのメインプールがなくなる噂は間違いであって欲しいとの声が多く、再整備という名のメインプール廃止方針や市民意見募集にも驚きを隠せません。横浜市を中心に世界で活躍する選手が多く出て来ていることや私どもが掲げる障がい者が健常者とともに輝く社会の実現は、私たちだけでは成しえず、社会全体、とりわけ行政の皆様方の支えがあつてのことです。また、実現の舞台として横浜国際プールのメインプールが大きな位置を占めておりますことをお伝えいたしますとともに、

今一度、横浜国際プールのメインプールを存続いただくようお願いいたします。

何卒、引き続き障がい者・インクルーシブスポーツ推進にご高配いただきますようお願い申し上げます。

以上